

「いつものとおり」

今週のみことば

(民数記9章15節～23節)

「彼らは主の命により宿営し、主の命により旅立った。彼らはモーセを通して示された主の命により、主への務めを守った。」(9:23)

(ルカの福音書4章16節～20節)

「それからイエスはご自分が育ったナザレに行き、いつもしているとおりの安息日に会堂に入り、朗読しようとして立たれた。」(4:16)

今日のメッセージ要旨

◎私たちにはそれぞれの生活習慣があります。ともすればだらけることもあります。もう一度主イエス様の生活習慣に教えられましょう。

◎民数記7章で祭壇の奉献、8章でレビ人の聖別を終え、9章で出エジプト後初めての過越のいけにえを献げた。その日「人の死体によって汚れてい」た者はひと月後に献げることができた(1-15)。寄留者も割礼を受けることにより過越のいけにえを献げることが出来た(14, 出エジプト12:43-49)。イスラエルがエジプトを出たときから、彼らには昼は雲の柱、夜には火の柱が伴っていた(出エジプト12:21-22)。幕屋が完成し、それは幕屋の上にあった(15-23)。

主の臨在のしるしの雲が幕屋の上にある間、イスラエルの民は宿営し続けた。彼らは宿営するにも前進するにも神様の導きに従って歩んだのです。シナイ山でモーセに語られた神様は、雲によって臨在を示されたのです(出エ19:9, 18)。荒野を旅する間、神様は雲の柱と火の柱をもってイスラエルの民を導かれたのです。エジプト脱出時には顕著に雲の柱と火の柱とが見られた(出エ14:19-24)。荒れ野を旅するイスラエル人は、徹頭徹尾、神様の命令によって前進し、また宿営し、その戒めを守らなければなかったのです。

◎ルカの福音書4章で、イエス様は「いつものとおり」安息日に会堂に入り、聖書を朗読されたのです(16)。賛美の歌を歌った後、「いつものように」オリブ山に行かれ「いつもの場所に着いたとき」、「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と語られ、更に奥入り祈られたのです(22:39, 40)。ここにイエス様の生活習慣が示されています。私たちも模範とすべきなのです。

◎イエス様は、ご自分が「育ったナザレに行き」イザヤ書61章1-2節(主のしもべの歌)を朗読され、その後「きょう、聖書のみことばが、あなたがたが聞いたとおり実現しました」と語られたのです(21)。主イエス様は「主の御霊がおられる」(18)と預言されているとおり「油を注がれた御方(メシヤ)」です。それは「貧しい人々に福音を知らせる」ためであった。即ち「捕らわれ人」「盲人」「しいたげられた人」への救い主として「福音を伝えるために」遣わされたのです。その福音の内容は「赦免」「目の開かれること」「自由」です。

◎特に「主の恵みの年」(19, イザヤ62:2, レビ25:10)を告げ知らせるためです。これはヨベルの年、50年ごとに民のすべてが自由になる年(赦免の日)なのです。これはイエス様の救いのみ業に当てはめられ、神様の救いのみ業が終末のこの日にイエス様において実現したことを示しているのです。

◎イエス様の救いは「きょう」なのです(21)。「きょう、わたしとともにパラダイスにいます」(ルカ23:43)。「確かに、今は恵みの時、今は救いの日です」(コリント②6:2)。

◎神様の救いのみ業は一人ひとりに提供されており、その恵みに与ることを主イエス様は願っておられるのです。